

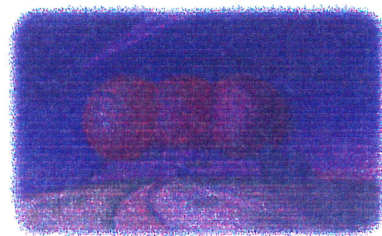
遊星測候所

#01

「病棟の“異星の客”」

「南東から来た男」「K-ボックス」

— text / strange.N. —



【 planetary 】

主1. 観測所、天文台、気象台、測候所 2. 観望台、望遠鏡

【 observatory 】

主1. 遠望の、天体の観測を受けた、地球の、この世の; 世界情勢など 2. 観望する; 不定の

NOOSY CULTURAL COIUM



監督 西村/コロンビアピクチャ (86) アルゼンチン



ジョン・ブルーノ著 (96) 風間 賢二 訳/角川文庫

【関連作品】 relation

異星の客
ハインライン/藤元浩文
カッコーの巣の上で/
ジャック・ニコルソン

【南東から来た男】

ヌース理論の生みの親、コーセン半田氏は、一時期精神病院に遊学なされていた。ヌースと長いおつき合いのある方は御存知かと思う。未だ、ヌースがこの世に出現する前夜のことだ。なんでも魔界スマルトとの大格闘の末の出来事だったらしい。重病隔離病棟で映画『羊たちの沈黙』よろしく、拘束服姿だったらしい。未曾有の宇宙論ヌースセオリーは未だ、たった一人の頭の中にしか存在しておらず、その頃の半田氏はまぎれもなく病棟の“異星の客”だったのだ。全く別の世界認識観を持つこの“異星の客”、そして、その整合性のある宇宙観の断片を、最初に垣間見た主治医。この両者のセッションは如何様なものだったのだろう。映画『南東から来た男』は、まさにそんな両者の遭遇ストーリー。ヌース前夜のコーセン半田、そのものを彷彿させる、唯一の映画だ。南米ブエノスアイレスの片田舎にひっそりと建つ精神病院。医師デニスはある朝、担当患者がひとり増えていることに気づく。その男はランテースと名乗り、宇宙船で地球にやって来たと言ふ。何者か？この、物静かな青年が少しずつ語り始める、別の世界認識観と、彼自身の不思議な佇まいは、他の患者たちを存在の深い所で変貌させていき、やがて医者デニス自身の倫理観をも揺さぶりはじめる……。アルゼンチンの珍しい、地味な作品だけれど、全体に漂う静謐な映像が、物語のリアリティをより高めていて、好印象を与える。

ワーとの最初のセッションで、自分は異星人であり、7千光年離れた琴座の惑星K-PAXから、超光速素粒子タキオン！！

(ヤッテクレルネ!)で、地球に旅行で訪れたと屈託なく話し始める。ブルーワー医師は彼を多重人格(M.P.D)と診断。ところが、セッションを重ねるうちに語られる、惑星K-PAXのユートピア的生態系、社会機構、文化、教育、医療等の詳細。またそのつどに語られる、高度で豊富な天文学、物理学的知識と、プロト自身が持つ不思議な力は、『南東から来た男』のランテース同様、まわりの者すべて、そしてブルーワー医師までも癒していくのだった。彼は本当に異星人なのか？それとも多重人格者なのか？ミステリアスで、スリリングな話が一気に展開していく。精神病院という閉ざされた空間世界ゆえか、謎は最後まで明らかにされないのだが、両作品とも、地球新時代の予兆とも言うべきものを、ほのかに、しかし確実に示唆していて、不思議な高揚感が私にはあった。

——すべてはシリウスの導きだったのかもしれない。精神病院。入るのは簡単だが出るのは至難の技と、私もよく耳にして来た(ってどーゆー友だちモツテルワケ?)。半田氏は幸運にも理解ある主治医との巡り逢わせでほどなく退院。御陰で今日、我々はこのヌースセオリーを知ることが出来た訳だ。

(まっ私の場合、単に知っているだあーけ、だが……

…) ——私は今、ぼんやりと想う。同じ精神病院を舞台にしながらも、救いようのない展開をするもうひとつの映画、

【K-PAX】

小説『K-PAX』では、ニューヨークの精神病院が舞台。こちらにはプロートと名乗る、スポーツマンタイプの好青年がある日収容される。精神科医ブルー

『カッコーの巣の上で』のことを。そして世界中の精神病院で、或いは市井の片隅に今もひっそりというであろう無数の異星の客のことを。彼らに星の導きのあらんことを！